



NNA (THAILAND) CO., LTD.

23/61 Sorachai Building 18 Floor, Sukhumvit 63 Road, North Klongtan, Wattana, Bangkok, 10110 Thailand
Tel : 02-392-0475 Fax : 02-392-0479 E-mail : sales_th@nna.asia

MDDI (P) 063/03/2026

違法業者横行、歪む産廃市場 取締まり継続、適正化へ模索続く

タイの産業廃棄物市場で、不法投棄などでコストを抑える違法な業者が横行し、適正に処理する事業者との競争環境をゆがめている。現行制度では、委託先の不適切な処理が発覚すれば排出者側も責任を問われるため、製造業者にもリスクが及ぶ。こうした状況を受け、タイ工業省工場局（DIW）は違法な廃棄物処理業者の取締まりを続ける。新たな「産業廃棄物管理法案」も準備され、市場の正常化に向けた制度整備が模索されている。【大畠奈菜子】

廃棄物と向き合う

～タイ、排出者責任の時代～



工業省による違法業者取締まりの様子（タイ工業省工場局提供）

2023 年に施行された工業省令によって、タイでは産業廃棄物への「汚染者負担原則（Polluter Pays Principle=PPP）」が適用されている。排出企業が最終処理までの責任を負う仕組みで、処理業者に委託した後も責任が残る。そのため、適切な処理業者を選ぶ必要があるが、実際には価格を優先した違法業者への委託が相次いでいる。

こうした事態を受け、工業省は取締まりを強化。エカナット前工業相の下で発足した特別チームは 25 年 7 月までに、工場法違反や違法輸入など 175 件に対応し

た。その後政権交代により同氏は退任したが、違法処理施設の摘発は続いている。

最近では、今年 7 月に東部チョンブリ県で冷蔵庫用の断熱材が違法に保管されていたことが発覚。廃棄物処理業者に加え、委託元である冷蔵庫の製造工場にも立ち入り調査が実施された。

違法業者の特徴について DIW は、「許可のない操業のほか、放棄された工場や倉庫など人目につきにくい場所を借りて廃棄物を保管し、不法に投棄したり地中に埋めたりするケースが多い」と説明している。また、こうした業者の中には、税収や雇用などタイ経済への貢献がほとんどない外国資本の事業者、いわゆる「ゼロパーツ工場」も含まれ、政府は警戒を強めている。

待たれる新法

そうした中、昨年 3 月に公開されたのが「産業廃棄物管理法案」だ。排出者責任を徹底するとともに、違法業者の排除を後押しする法案となっている。

立案の背景には、違法業者の横行のほか、既存の関連法・制度では複雑・多様化する産業廃棄物に対応できなくなっているという現状がある。

タイでは廃棄物関連法が DIW やタイ天然資源・環境省公害管理局（PCD）、地方自治体など複数の省庁にまたがっている。定義や監督権限も分散し、執行力に課題を抱えているのだ。

DIW によると、産業廃棄物管理法案は産業改革に向けた省内の法改正委員会が内容を検討し、すでに公聴会も完了。現在は閣議提出に向けた最終調整段階にあるという。

ただし、同法案は前工業相のエカナット氏の肝いりで進めてきた施策だったため、今後審議が進むかは不透明との関係者の見方もある。

適正処理業者「市場正常化に期待」

環境事業を手がける DOWA エコシステム（東京都千代田区）の子会社で、廃棄物の収集・運搬を手がけるウェイスト・マネジメント・サイアム（WMS）の岡田美洋社長は、「政府が適切に動くことで、市場の正常化につながる」と指摘する。違法業者が淘汰（とうた）されることで、適正な処理業者が評価される健全な競争環境が実現するとの見方だ。

WMS は有害物質や冷媒ガス（フロン）の処理にも対応し、専門設備を用いた処理を強みとする。顧客は日系企業のほか、環境基準の厳しいグローバル企業や欧州系企業が中心だ。

本来、産業廃棄物の適正処理には専門設備や厳格な管理体制が必要で、一定の費用がかかる。一方、違法業者は不法投棄や不適切な処理によって安価で受注するケースが多い。

同氏は、「日系の工場でも不適切な処理業者を選んでしまうリスクがある」と指摘する。業者選択で担当者が本社に報告する際、最も説明しやすいのがコストだからだ。安価な業者に委託した結果、不適切な処理が発覚し、排出者側の企業が責任を問われるケースもあるという。

廃棄物処理の今後

一方、廃棄物処理を巡る市場環境には変化が生じ始めている。WMS によると、近年は埋め立て処理を減らす「ゼロ・ランドフィル」を目指す企業が増加しているという。同社でも、焼却時の熱回収やセメント原料化など、埋め立て以外の処理を強化している。

さらに、タイでは廃棄物発電プラントの建設も進む。廃棄物を燃料として利用し収益化するモデルが広がることで、「モノの流れが変わるかもしれない」（岡田氏）。

排出企業にも責任が及ぶ時代には、廃棄物処理も企業競争力を支える経営課題となる。制度整備や市場の変化を背景に、廃棄物との向き合い方そのものが問われ始めている。



ウェイスト・マネジメント・サイアムの岡田美洋社長＝2025年1月、バンコク（NNA撮影）

< 企業紹介 >

ウェイスト・マネジメント・サイアム（WMS）
タイで産業廃棄物の収集・運搬を手がけるほか、同国内のグループ会社を通じて最終処理まで担う環境・リサイクル事業者。国内各地に処理拠点を持ち、年間約30万トンの廃棄物を扱う。そのうち5万トンには有害廃棄物で、冷媒ガス（フロン）も100トン程度処理している。適正処理のための専門設備を備えるほか、処理した廃棄物に付加価値を加えて顧客に返却するなど、循環型の処理モデルを提供している。